

# 平成19年度 事業報告書

学校法人 常葉学園

1. はじめに .....	1
2. 法人の概要	
(1) 設置する学校等 .....	3
(2) 学校等における学生等の状況 .....	4
(3) 役員・教職員の状況 .....	5
① 役員	
② 教職員	
3. 事業の概要	
(1) 教育事業 .....	6
(2) 組織の充実・強化 .....	9
4. 財務の概要 .....	11
(1) 資金収支計算書 .....	12
(2) 消費支出計算書 .....	13
(3) 貸借対照表 .....	14

# 平成19年度 事業報告書

## 1. はじめに

常葉学園は、昭和21年創立者木宮泰彦先生によって創設され、建学の精神である「美しい心情をもって国家・社会・隣人を愛し、堅固な意思と健康な身体をもっていかなる苦難にもうち克ち、より高きを目指して学び続ける人間」の育成を目指して今日まで61年の歴史を刻み、静岡県の私学教育をリードしてまいりました。本学園は、幼稚園から大学・大学院まで園児・児童・生徒・学生の総数が約11,200名を数え、卒業生は県内外で高い評価を受け、幅広く活躍しております。

しかし、昨今の政治・経済の先行きの不透明感が漂う状況に加えて、少子化の影響により学校法人を取り巻く環境は厳しさをさらに増してきており、本学園においても予断を許さない状況になってきています。

こうした状況の中、常葉学園大学においては時代の流れをいち早くとらえ、社会的要請に応えるべく教職大学院の設置認可を申請いたしましたところ、平成19年12月3日、文部科学大臣より認可を受けました。

そして、常葉学園短期大学においては、学校の第三者評価が求められている中、短期大学基準協会による第三者評価を受け、認証を得ることができました。

その他、浜松大学の学部組織の見直しや医療専門学校におけるの四大化構想の具体化に向けて検討に取組み、医療専門学校の四大化に関しては現在も引続き文部科学省との調整を進めているところであります。

また、かねてより進めてきました学校法人浜松常葉学園を吸収合併することについては、文部科学大臣より平成20年1月25日に認可を受け、平成20年4月1日付けの合併に向け事務手続を進めました。

さらに、とこは幼稚園においては平成20年1月8日に園舎を新築・移転することができ、多年の念願を達成することとなりました。

このように、種々の事業について積極的に取り組んでまいりました。

一方、スポーツ面においては菊川高校野球部が春の選抜甲子園で全国優勝、夏の甲子園でベスト4、秋の明治神宮大会で全国優勝したことを始め、同校の女子ソフトボールや女子駅伝、さらには常葉高校女子バスケットボール部がウインターカップに出場するなど学園内各校が全国大会で活躍し「常葉」の名を全国にアピールしてくれました。

なお、財務の状況につきましては、これまでは消費収支が支出超過でありましたが、支出経費の見直しや徹底した経費削減に努めた結果、収入超過に転じるなど改善に努めたところであります。

また、規程等改正委員会においては「大学・短大学長選任規程」等の制定・改正に取り組み、事務システム検討委員会においては事務組織等の改革・改善の検討を行ってまいりました。

今後も、地域に根ざした学園として常葉学園の教育がより厚い信頼を得られるよう諸施策を積極的に講じてまいる所存です。

## 2. 法人の概要

### (1) 設置する学校等

新設学部として、浜松大学ビジネスデザイン学部(経営情報学科、サービスと経営学科)が開設された。

名 称	学 部 等	学 科 等	開設年度	
常葉学園大学	教育学部	初等教育課程	昭和55年度	
		生涯学習学科	平成10年度	
		心理教育学科	平成16年度	
	外国語学部	英米語学科	昭和59年度	
		スペイン語学科(平成16年4月募集停止)	昭和59年度	
	造形学部	グローバルコミュニケーション学科	平成16年度	
大学院	国際言語文化研究科	造形学科	平成14年度	
		国際教育専攻	平成 8年度	
浜松大学	ビジネスデザイン学部	英米言語文化専攻	平成 8年度	
		経営情報学科	平成19年度	
	サービスと経営学科	平成19年度		
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	平成17年度	
		こども健康学科	平成17年度	
		心身マネジメント学科	平成17年度	
	経営情報学部	経営情報学科	昭和63年度	
		情報ネットワーク学科	平成13年度	
	国際経済学部	国際経済学科	平成 6年度	
	大学院	留学生別科		平成17年度
		経営学研究科	経営学専攻	平成 8年度
総合経営学部		総合経営学科	平成12年度	
富士常葉大学	環境防災学部	環境防災学科	平成12年度	
	保育学部	保育学科	平成18年度	
	留学生別科		平成18年度	
	大学院	環境防災研究科	環境防災専攻	平成18年度
常葉学園短期大学		日本語日本文学科	昭和41年度	
		保育科	昭和41年度	
		音楽科	昭和43年度	
		英語英文科	昭和47年度	
	専攻科	国語国文専攻	平成 7年度	
		保育専攻	昭和45年度	
		音楽専攻	昭和45年度	
常葉学園高等学校	全日制課程	普通科・家庭科	昭和27年度	
常葉学園橘高等学校	全日制課程	普通科	昭和38年度	
		音楽科	昭和38年度	
		英数科	昭和59年度	
常葉学園菊川高等学校	全日制課程	普通科	昭和47年度	
		美術・デザイン科	昭和47年度	
常葉学園中学校			昭和23年度	
常葉学園橘中学校			昭和40年度	
常葉学園菊川中学校			平成15年度	
常葉学園大学教育学部 附属橘小学校			昭和53年度	
常葉学園短期大学附属 とこは幼稚園			昭和41年度	
常葉学園短期大学附属 たちばな幼稚園			昭和45年度	
常葉学園医療専門学校	専門課程	理学療法学科	平成 8年度	
		作業療法学科	平成 8年度	
		鍼灸学科	平成17年度	
		柔道整復学科	平成17年度	
常葉学園静岡リハビリ テーション専門学校	専門課程	理学療法学科	平成17年度	
常葉リハビリテーション 病院			平成14年度	

## (2) 学校等における学生等の状況

在籍学生等数の合計は前年度に比べ若干の増加に留まった。

また、大学・短大・専門学校学生の全体に占める比率が63.3%（前年60.4%）に達した。

（在籍者総括表集計による）

（人）

学校名等			在籍学生等数(5/1現在)	
			平成19年	平成18年
常葉学園大学	教育学部	初等教育課程	482	466
		生涯学習学科	273	293
		心理教育学科	294	227
	外国語学部	英米語学科	532	551
		スペイン語学科	3	57
		グローバルコミュニケーション学科	264	195
	造形学部 造形学科		262	276
	大学院 国際言語文化研究科		20	31
計		2,130	2,096	
浜松大学	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	131	—
		サービスと経営学科	101	—
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	247	167
		こども健康学科	179	143
		心身マネジメント学科	339	200
	経営情報学部	経営情報学科	546	738
		情報ネットワーク学科	84	124
	国際経済学部	国際経済学科	274	375
留学生別科		28	33	
大学院 経営学研究科		47	50	
計		1,976	1,830	
富士常葉大学	総合経営学部 総合経営学科		665	606
	環境防災学部 環境防災学科		517	534
	保育学部 保育学科		173	97
	留学生別科		0	9
	大学院 環境防災研究科		8	5
計		1,363	1,251	
常葉学園短期大学	日本語日本文学科		136	154
	保育科		448	468
	音楽科		105	96
	英語英文科		148	164
	専攻科	国語国文専攻	11	12
		保育専攻	29	27
音楽専攻		44	38	
計		921	959	
常葉学園高校		601	601	
常葉学園橘高等学校		1,132	1,421	
常葉学園菊川高等学校		1,038	1,086	
常葉学園中学校		138	112	
常葉学園橘中学校		188	187	
常葉学園菊川中学校		163	147	
常葉学園大学教育学部附属橘小学校		378	380	
常葉学園短期大学附属とこほ幼稚園		239	253	
常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園		251	240	
常葉学園医療専門学校		488	443	
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校		233	164	
合計		11,239	11,170	

### (3) 役員・教職員の状況(平成19年5月19日付け)

#### ① 役員概要

新たに役員として、木宮岳志理事と堀敬史監事が平成19年5月19日付けで就任した。

役員の種類	氏名	兼職名	常勤・非常勤の区分
理事長	木宮 健二	富士常葉大学学長	常勤
理事(副理事長)	海野 晴男	人事監	常勤
理事	海野 泰男	常葉学園大学学長	常勤
理事	木宮 一邦	浜松大学学長	常勤
理事	山本 伸晴	常葉学園短期大学学長	常勤
理事	福島 克信	常葉学園橘中・高等学校校長	常勤
理事	小長井 淳吉	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校校長	常勤
理事	三浦 均	企画監	常勤
理事	齊藤 斗志二		非常勤
理事	山内 啓司		非常勤
理事	中村 隆行		非常勤
理事	木宮 岳志	人事監	常勤
監事	加藤 正秀		非常勤
監事	堀 敬史		非常勤
監事	高木 伯一		非常勤
監事	石橋 一郎		非常勤

#### ② 教職員数

新設学部・学年進行中の学部等への専任教職員・非常勤教職員の採用により、前年に比べ増員となった。

(平成19年5月1日付け在籍者総括表集計による) (人)

所属名	専任教員	専任職員	非常勤教員	非常勤職員	計
法人本部	0	50	0	35	85
常葉学園大学	94	28	156	7	285
浜松大学	101	30	153	14	298
富士常葉大学	65	28	107	15	215
常葉学園短期大学	40	23	172	9	244
常葉学園高校	30	4	18	0	52
常葉学園橘高等学校	61	7	49	0	117
常葉学園菊川高等学校	52	7	38	0	97
常葉学園中学校	8	1	9	0	18
常葉学園橘中学校	8	1	11	1	21
常葉学園菊川中学校	11	1	6	0	18
常葉学園大学教育学部附属橘小学校	25	2	18	1	46
常葉学園短期大学附属とこは幼稚園	10	1	5	0	16
常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園	11	1	4	0	16
常葉学園医療専門学校	30	6	89	2	127
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	9	4	35	0	48
常葉リハビリテーション病院	0	46	0	20	66
計	555	240	870	104	1769
平成18年5月1日付け 計	548	236	785	90	1659

## (1) 教育事業

競争的環境及び多様化社会の要請に応える改革を推進し、一層困難さを増している志願者、入学者の確保のための施策を教職員一丸となって推進してきましたが、志願者数が予想を超えるペースで減少し、定員割れを起こす学部・学科等が増加しました。18才人口の減少に伴う市場縮小に対応する経営改革、教育改革、学生等の確保に対する施策の強化が一層重要との認識にいたりました。19年度における本学園の教学面における主要事業の展開状況は次のとおりです。

### 1) 大学・短期大学・専門学校

- ① 常葉学園大学は、専門性の高い教員養成を目的に展開する「教職大学院—初等教育高度実践研究科」が、計画どおり開設いたしました。また、外国語学習を支援する「外国語学習支援センター」の設置、入試方法の見直し、教育課程の変更を行いました。
- ② 浜松大学は、大学院に「健康科学研究科」を、学部で常葉学園医療専門学校の理学・作業療法学科を発展改組した「保健医療学部」の設置をすべく準備委員会を立上げ、平成21年4月開設を目途に準備を進めております。また、健康プロデュース学部心身マネジメント学科への教育免許状「保健体育」の課程認定の取得にあわせ、専用アリーナの整備を行い、さらに学生の厚生施設の整備充実として、学生食堂のリニューアルを行い、より良い教育環境の整備に努めました。
- ③ 富士常葉大学は、地域との連携強化を目指す学生防災サミット、第2回子育て講演会、第2回スポーツフォーラムの開催など特色ある教育活動を展開しました。また、教員と企業との連携、科研費・科振費等の獲得に努め、外部機関との連携により研究水準の向上を図りました。
- ④ 常葉学園短期大学は、「短期大学基準協会（文部科学大臣の認証機関）」



による第三者評価を受け、評価の結果、短期大学協会の短期大学基準に適合していると認定され、短期大学協会の正会員への加盟・登録が承認されました。

- ⑤ 常葉学園医療専門学校は、時代や社会的ニーズ、社会の変革期に合わせた教育事業の見直しを行い、浜松大学と連携して、理学・作業療法学科を発展改組した「保健医療学部」の設置に向けて準備を進めております。
- ⑥ 常葉学園静岡リハビリテーション専門学校は、常葉学園高等学校との連携教育を推進する一方、きめ細かな授業を展開し、国家試験受験対策を強化しております。また、医療専門学校と同様に、社会的ニーズ、社会の変革期に合わせた教育事業の見直しに着手しております。
- ⑦ 前述したとおり、学生確保については、志願者の減少及び入学者の定員割れを起こしている部門もあり、入試制度の見直し、きめ細かな募集戦略の策定等を行い、今後とも募集活動に積極的に取り組んでまいります。

一方、就職状況については、不安定な経済状況の中、就職支援センター等を中心とした支援活動により概ね良好な状況となっております。平成19年度の学生募集及び就職支援活動による入学状況・就職状況は別表1のとおりです。

## 2) 高等学校・中学校・小学校・幼稚園

昨年度に続き、中・高一貫教育の充実や教育課程の見直し、コース制・系統別教育、さらには学園内の上級学校との連携教育等を実施し、他校との差別化を図ることにより、一部高校を除いては、ほぼ前年度と同数の生徒の確保ができました。しかしながら、募集人員との対比においては、乖離している学校もあり、一層の取組が必要となりました。また、課外活動では、常葉中・高校のバスケットボール部、橘中・高の野球部と橘中の女子サッカー部、菊川高校の女子ソフトボール部、空手道部等が全国大会へ出場しました。

とりわけ菊川高校の野球部が、春夏連続3回甲子園大会に出場するなど、スポーツ面でもすばらしい成果を挙げることが出来ました。

橘小学校では、ネイティブ教員の採用により、英語教育の充実が図られたことと、小学校の教育の特色である音楽教育の充実を図るため、オーケストラレッスン室の整備計画に着手しました。

幼稚園は、ホームページの充実、未就園児教室の実施、入試相談会の改善等を行いました。また、とこは幼稚園の移転及び園舎の新築は計画とおりに行われ、新園舎での卒園式が挙行されました。

3) 幼稚園から高等学校までの教育振興へとして寄附していただいた「豊田順介奨学基金」の活用状況は次のとおりです。

幼稚園	1件	2,500千円
小学校	11件	191千円
<u>中・高等学校</u>	<u>12件</u>	<u>5,467千円</u>
計	24件	8,158千円

## (2)組織の充実・強化

まず、諸規程の整備については、規程等改正委員会において新時代に対応できる人材の養成・確保の観点から大学関係諸規程の全般的見直しを行い、大学・短期大学学長選任規程、大学副学長選任規程、短期大学副学長選任規程、大学学部長選任規程および短期大学学科長選任規程を新設するとともに、大学教育職員任用並びに昇任規程を改正しました。それに伴い、大学教育職員任用基準を新設し、大学教育職員昇任基準を改正しました。

しかし、大学教育職員の勤務に関する規程や大学教育職員の職務評価に関しては改正までに至らなかったもので、今後継続して検討を進めていくこととし、一段の実効性ある諸規程の整備を図っていく予定です。

次に、監事監査機能については、その実効性を高めるために、内部監査機能を充実させ、透明性を確保した効率的な組織運営に努めることといたしました。

さらに、第三者評価の基礎となる自己点検・評価の対象を教職員全員に広げ、教職員自らが目標を定めて仕事に取り組むための「自己申告制度」を導入いたしました。今後は、「自己申告制度」を学校や部署の目標と連結させて、個々の教職員の目標管理が学園全体の発展に結び付くように努めていく予定です。

最後に、事務改善及び効率化については、教職員の資質向上を図るための研修制度を強化・充実すべく、平成20年度開始を目途として、新任者を対象とした基本研修制度および授業力・事務力向上強化月間制度の制度設計を行いました。また、大型コンピュータからサーバーシステムへの移行を念頭に事務システム全般を見直す委員会を設置し、平成22年開始を目途に、審議やデモを行う等検討作業を行いました。

平成19年度の学生募集及び就職活動による  
入学状況及び就職状況

別表 1

学校名	学部学科名	H20. 5. 1現在		平成19年度卒業生 就職状況(%)
		入学定員	入学者数	
常葉学園大学	教育学部			
	初等教育課程	110	135	100.0
	生涯学習学科	50	73	96.1
	心理教育学科	60	69	98.5
	外国語学部			
	英米語学科	110	112	95.4
	スペイン語学科	-	-	100.0
	グローバルコミュニケーション学科	70	62	96.4
	造形学部			
	造形学科	80	79	85.4
浜松大学	ビジネスデザイン学部			
	経営情報学科	150	85	-
	サービスと経営学科	150	118	-
	健康プロデュース学部			
	健康栄養学科	80	71	-
	こども健康学科	60	27	-
	心身マネジメント学科	110	107	-
	経営情報学部			
	経営情報学科	-	-	93.9
	情報ネットワーク学科	-	-	95.5
	国際経済学部			
国際経済学科	-	-	100.0	
富士常葉大学	総合経営学部			
	総合経営学科	160	167	100.0
	環境防災学部			
	環境防災学科	150	96	100.0
	保育学部			
保育学科	80	98	-	
常葉学園短期大学	日本語日本文学科	80	48	80.9
	英語英文科	80	73	91.8
	保育科	200	203	98.0
	音楽科	55	43	77.3
常葉学園医療専門学校	理学療法学科	40	34	97.0
	作業療法学科	40	17	93.0
	鍼灸学科	60	23	79.0
	柔整学科	60	20	67.0
常葉学園静岡 リハビリテーション 専門学校	理学療法学科	80	68	-

※大学院、専攻科、編入学、留学生別科を除く

## 4. 財務の概要

本学園の財政運営に当たっては、「学校の経営の安定を図り、健全な学校運営を行なうため、堅牢な財政基盤の構築と徹底した支出の削減を図り、経営の合理化に努めてまいりました。

平成19年度における消費収支上の主な財務の概要は次のとおりであります。

平成19年度の帰属収入（消費収支計算書参照）は、124億16百万円と対前年3億10百万円増加しましたが、これは寄付金収入の増加があったほか、平成17年度からの浜松大学健康プロデュース学部新設、医療専門学校鍼灸・柔道整復両学科の新設、静岡リハビリテーション専門学校の開学及び平成18年度の富士常葉大保育学部開設等による学生数の経年増加にともない学納金収入が対前年2億70百万円増加したことによります。

また、補助金収入は、21億31百万円と厳しい財政状況ながら僅かに増加しています。そして、基本金組入額は、浜松大学アリーナ建設やとこは幼稚園園舎の新築があったものの、私学事業団による借入金組入額に算入されないため、昨年に比べ2億4百万円減少しました。

一方、消費支出は112億67百万円と対前年とほぼ同水準でした。

内容としては、人件費が対前年で56百万円減少するとともに、節約により管理経費が対前年61百万円減少しており、その減少分が教育研究費の対前年1億27百の増加になっています。

この結果、消費収入から消費支出を控除した当年度消費収入超過額は、2億62百万円であり、平成20年度・21年度はなおも新增設の学年進行中のことを考慮すると今後も学納金収入の増加が見込まれます。

しかし、なおこれからも一層厳しい学生・生徒募集は続くものと思われまので、決して油断できない状況に変わりはありません。しかも、高校以下の建物の老朽化は著しく、この改修状況の推移により近い将来、資金繰りがかなりタイトになることも予想されますので、全学園あげての一層の経費節減と合理化を図る必要があります。

## (1) 資金収支計算書

(単位:百万円)

科 目 名		平成19年度	平成18年度	平成17年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,671	8,401	8,068
	手数料収入	158	183	206
	寄附金収入	188	48	52
	補助金収入	2,131	2,104	2,107
	資産運用収入	163	189	198
	資産売却収入	1	272	16
	事業収入	688	649	773
	雑収入	366	502	303
	前受金収入	1,728	1,928	2,011
	その他の収入	4,084	2,714	1,431
	資金収入調整勘定	△ 2,362	△ 2,341	△ 2,108
	前年度繰越支払資金	5,158	6,599	5,291
	合 計	20,974	21,248	18,348
	支出の部	人件費支出	7,314	7,311
教育研究経費支出		1,788	1,650	1,692
管理経費支出		903	970	917
借入金等利息支出		24	26	29
借入金等返済支出		87	95	95
施設関係支出		964	895	932
設備関係支出		328	151	272
資産運用支出		5,555	4,857	218
その他の支出		632	445	946
資金支出調整勘定		△ 343	△ 310	△ 231
次年度繰越支払資金		3,722	5,158	6,599
合 計		20,974	21,248	18,348

(2) 消費収支計算書

(単位:百万円)

科 目 名		平成19年度	平成18年度	平成17年度
消費収入の部	学生生徒等納付金	8,671	8,401	8,068
	手数料	158	183	206
	寄附金	239	77	86
	補助金	2,131	2,104	2,107
	資産運用収入等	1,217	1,341	1,372
	帰属収入合計	12,416	12,106	11,839
	基本金組入額合計	△ 887	△ 1,091	△ 3,417
	消費収入の部合計	11,529	11,015	8,422
消費支出の部	人件費	7,314	7,370	6,879
	教育研究経費	2,909	2,782	2,798
	管理経費	1,000	1,061	1,009
	借入金等利息等	44	44	59
	消費支出の部合計	11,267	11,257	10,745

(3) 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目 名		平成20年3月31日	平成19年3月31日	平成18年3月31日
資 産 の 部	固定資産	42,535	40,941	41,638
	土 地	14,700	14,700	13,910
	建 物 ・ 構 築 物	18,778	18,671	19,430
	機 器 備 品	1,878	1,959	2,186
	図 書	2,602	2,536	2,496
	その他の固定資産	4,577	3,075	3,616
	流動資産	9,479	9,837	8,234
	現 金 預 金	3,722	5,158	6,599
	その他の流動資産	5,757	4,679	1,635
	合 計	52,014	50,778	49,872
負 債 ・ 基 本 金 ・ 消 費 収 支 差 額 の 部	固定負債	2,362	2,128	2,157
	長 期 借 入 金	1,000	766	853
	退 職 給 与 引 当 金	1,362	1,362	1,304
	流動負債	2,400	2,546	2,461
	短 期 借 入 金	87	87	95
	前 受 金	1,741	1,940	2,023
	その他の流動負債	572	519	343
	基本金	49,084	48,207	47,226
	消費収支差額の部合計	△ 1,832	△ 2,103	△ 1,972
	合 計	52,014	50,778	49,872